

# WEALTH GROWTH 月間運用実績レポート (2025年6月)

## ■ 6月のパフォーマンス

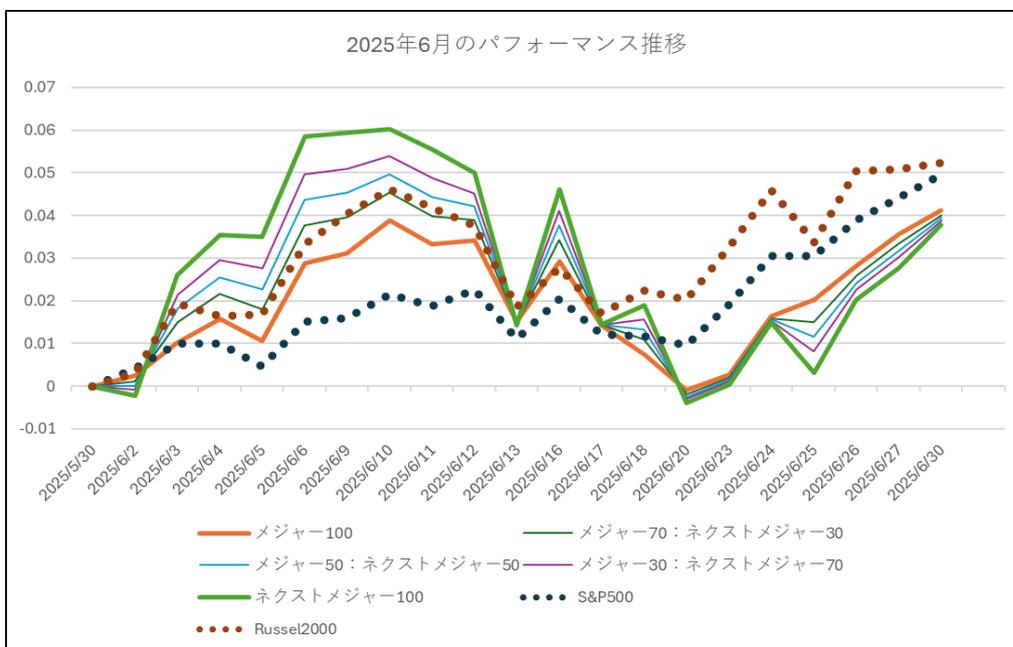
### ➤ ファンドの月間パフォーマンス

メジャー100	+4.10 %
ネクストメジャー100	+3.76%

### ➤ 各指標の月間騰落率

S&P 500	+4.96 %
Russel2000	+5.23 %
NASDAQ	+6.57 %
NY ダウ	+4.32 %

### ➤ 運用コース毎のパフォーマンス



順位	戦略名	月間パフォーマンス	ベンチマーク	ベンチマーク比
1位	メジャー100	4.11%	S&P500	-0.85%
2位	メジャー70：ネクストメジャー30	4.01%	S&P500 (70%) Russel2000 (30%)	-1.03%
3位	メジャー50：ネクストメジャー50	3.94%	S&P500 (50%) Russel2000 (50%)	-1.16%
4位	メジャー30：ネクストメジャー70	3.87%	S&P500 (30%) Russel2000 (70%)	-1.28%
5位	ネクストメジャー100	3.77%	Russel2000	-1.46%
	全戦略平均	3.94%		-1.16%

※各指標のベンチマークについて

メジャー100 のベンチマークは S&P500 、ネクストメジャー100 のベンチマークは Russel2000 合成戦略は保有比率でベンチマークを合成したもの

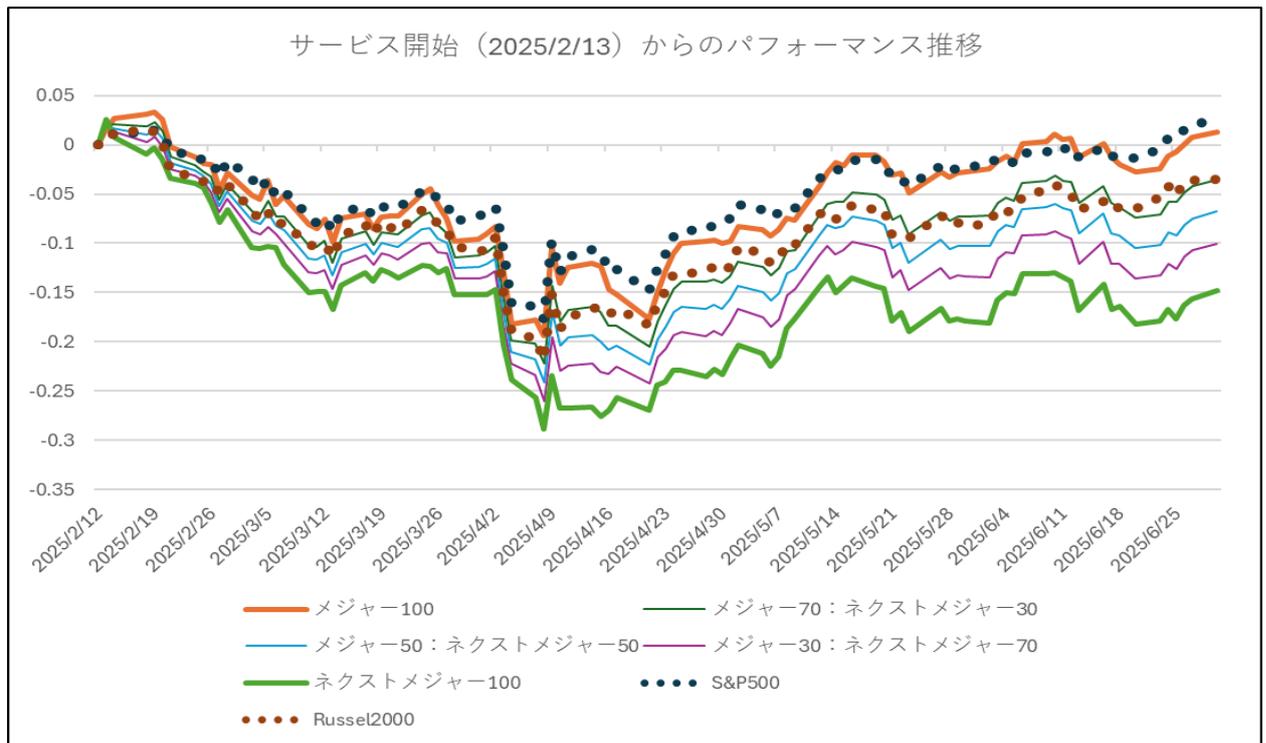
※上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、買付手数料・運用手数料・税金・売買コスト等は含まれておりません

※実際にお客様へご提供したモデルポートフォリオをもとに、配当込みリターンを用いて算出しています。

**Wealth Growth (ウェルスグロス) で最も月間成績が良かった戦略は、「メジャー100」でした。月間で+4.11%、対ベンチマーク比では-0.85%となり、ベンチマークをアンダーパフォーム。**

➤ 設定来のパフォーマンス推移グラフ

WealthGrowth (ウェルスグロス) の 2025 年 2月13日 (サービス開始) から 2025 年 6月末までの運用実績です。



※上記は過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、買付手数料・運用手数料・税金・売買コスト等は含まれておりません

※実際にお客様へご提供したモデルポートフォリオをもとに、配当込みリターンを用いて算出しています

➤ 設定来の騰落率

	過去1カ月	過去3カ月	過去6カ月	過去1年	設定来
メジャー100	4.11%	11.97%	-	-	1.29%
ネクストメジャー100	3.77%	0.51%	-	-	-14.85%
S&P500	4.96%	10.57%	-	-	2.53%
Russel2000	5.23%	8.17%	-	-	-3.50%

## ■ 6月の市況概況

➤ 米国市場

・第1週（ダウ平均：+2.83% S&P 500：+1.50% NASDAQ：+2.18%）

5月のISM製造業景気指数が発表され、関税政策の影響により3カ月連続で50を下回るも、貿易摩擦緩和に向けた米中首脳会談の可能性により上昇から始まりました。さらに、翌日発表された、4月の雇用動向調査は予想に反して求人数が上昇、関税発動後も堅調であったことが明らかとなり続伸、しかし、地区連銀経済報告（ページブック）が公表され前回調査から経済活動が「わずかに縮小」、また、5月のADP雇用報告では雇用の伸びが大きく鈍化、さらに、5月のISM非製造業景気指数が50を下回ったことで景気減速が警戒されNYダウは5日ぶり反落、一方でハイテク株は堅調となりS&P500・NASDAQは3日続伸となりました。4月の貿易統計（前月比）は、トランプ関税を見越した駆け込み輸入が収束し、輸入が大幅に減少したことで、貿易赤字616億1,700万ドル（-55.5%）と改善するも、新規失業保険申請者数は2週連続で増加、まちまちの経済指標が発表されるなか、週末に発表された5月の雇用統計（前月比）が、伸び鈍化も予想は上回ったことで労働市場は減速しつつも底堅いことが示され、週を通してはNYダウ・S&P500・NASDAQの3指数は揃って上昇しました。

・第2週（ダウ平均：-1.32% S&P 500：-0.39% NASDAQ：-0.63%）

第2週の米国株式市場は、米中貿易協議の進展や主要経済指標の発表、そして週末の中東情勢緊迫化により、変動性の高い一週間となりました。

週初のニューヨーク株式市場は、ダウが横ばいとなる一方、ナスダックとS&P500は続進しました。これは、米中貿易協議の再開への期待感や輸出規制緩和への思惑から半導体関連銘柄が買われたこと、ニューヨーク連銀による期待インフレ率の低下が株価を支えたこと等が背景にあります。週中にはダウが反発し、ナスダックとS&P500も続伸しましたが、翌日には米中貿易協議で合意が強調されたものの、内容の具体性不足や関税維持が投資家の失望を招いたため、ダウはほぼ横ばいとなるも、ナスダックとS&P500は4日ぶりに反落しました。また、5月の消費者物価指数（CPI）が市場予想を下回り、一時的に株価は好感されましたが、関税がインフレ圧力となることへの根強い懸念から買いの勢いは続きませんでした。翌日は3指数揃って反発するも、週末にかけては中東情勢の緊迫化を背景に、主要3指数が揃って1%を超える大幅下落となりました。イスラエル軍によるイラン核関連施設攻撃の報道や報復の懸念がリスク回避の動きを加速させ、幅広い銘柄が売られる展開となりました。

・第3週（ダウ平均 +0.02% S&P 500：-0.15% NASDAQ：+0.21%）

第3週の米国市場は、中東情勢の緊迫化、トランプ政権の政策、FOMCの金融政策見通しが複雑に絡み合い、株価は大きく変動しました。

週初のニューヨーク株式市場は、中東情勢の緊張緩和期待や原油価格の下落を背景に、ダウ、ナスダック、S&P500の主要3指数全てが反発し、特に通信や情報技術セクターが上昇を牽引しました。しかし、翌日には、トランプ大統領によるイランへの圧力強化と米国介入への警戒感から米国株は下落に転じました。5月の小売売上高が市場予想を下回るなど経済指標の弱さも報じられるなか、6月17・18日に開催された連邦公開市場委員会（FOMC）では、政策金利を4.25-4.5%と据え置きを決定も、年内利下げ「ゼロ」主張の参加者が増加しカ派な姿勢を示しました。週末にかけて中東情勢はさらに緊迫、米国が2週間以内にイラン核施設へ軍事介入すると表明し市場にサプライズを与えました。この報を受け、週末のニューヨーク株式市場ではダウが反発する一方、ナスダックとS&P500は続落しました。イランがホルムズ海峡の封鎖方針を承認したことも、事態のエスカレートを示唆し、リスク回避姿勢を強めました。

**・第4週（ダウ平均：+3.82%      S&P 500：+3.44%      NASDAQ：+4.25%）**

第4週の米国株式市場は、中東情勢の緊迫化と関税政策への懸念から週初に一時的な下落圧力が生じたものの、利下げ期待と企業業績の好調さに支えられ、主要指数は回復基調を強めました。

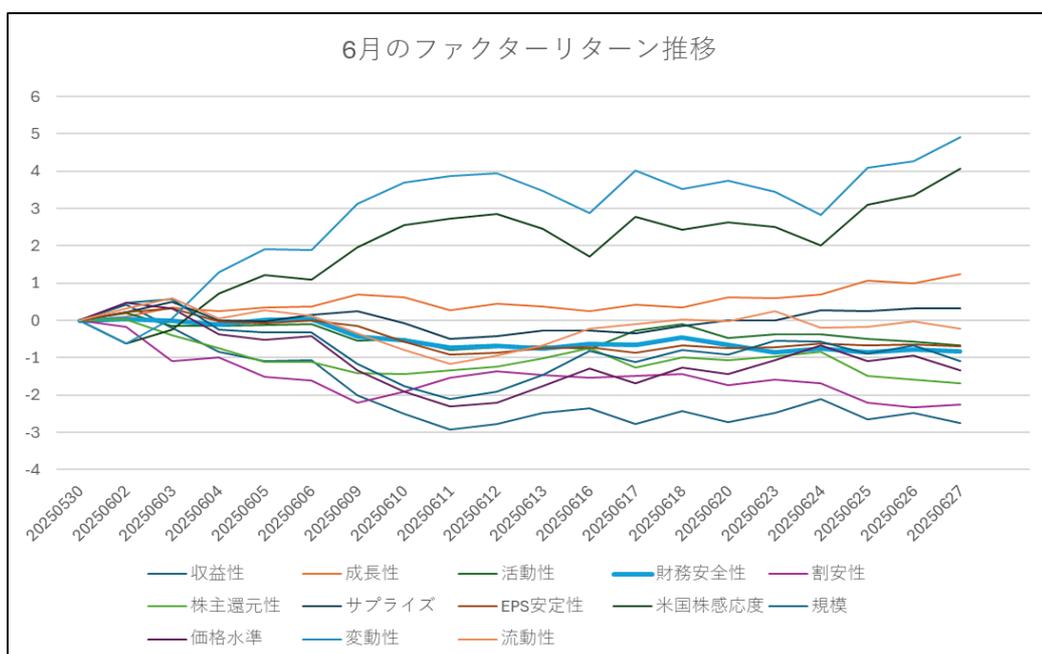
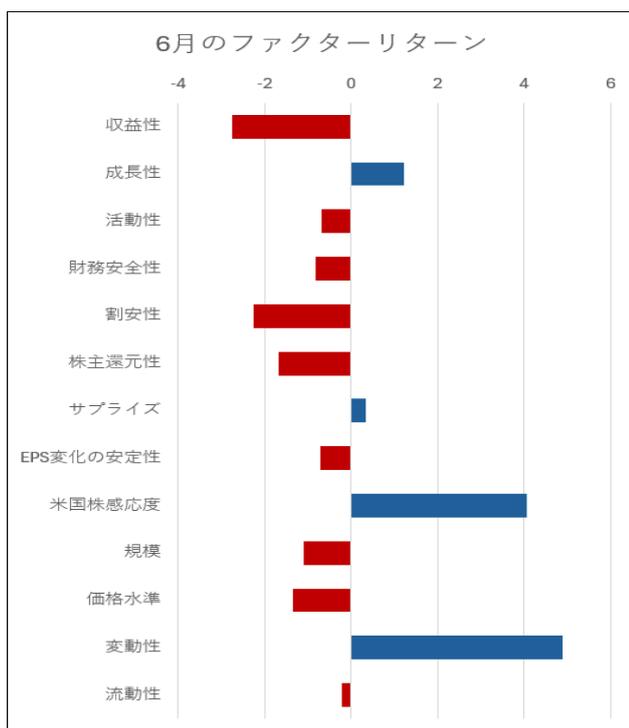
週初、ニューヨーク株式市場は中東情勢の緊迫化を受けたものの、イランによるカタールの米軍基地へのミサイル攻撃が限定的であったこと、およびFRB（連邦準備制度理事会）のポーマン副議長が早ければ7月にも利下げを支持する可能性を示唆したことから堅調に推移し、ダウは続伸、ナスダックとS&P 500は4日ぶりに反発、原油価格が下落したエネルギーセクターを除いて幅広いセクターが上昇しました。週中盤には、FRBのパウエル議長が利下げに慎重姿勢を示したにもかかわらず、利下げ期待や予想を下回る消費者信頼感指数が金利低下を促し、株価の広範な買いを加速させ、ダウは3日続伸、ナスダックとS&P 500も続伸しました。週後半には、ニューヨーク株式市場はさらに上昇し、ナスダックとS&P 500は最高値を更新しました。AI事業への期待、メタによるAI企業買収の報道、半導体株の堅調な上昇、そしてホワイトハウスによる関税猶予期間のさらなる延長示唆が株価回復を後押ししました。しかし、週末にはトランプ大統領がカナダとの貿易交渉打ち切りを示唆し、日本製自動車への追加関税維持の方針も示唆したことで、関税懸念が再燃する場面もありました。

## ■ 月間パフォーマンスの背景

### ➤ ファクター動向

6月は5月に続き、好業績のハイリスク・グロース銘柄が堅調となりました。

ファクターリターンの推移を見ても、変動性ファクター・米国株感応度ファクター・成長性ファクター・サプライズファクターがプラスとなる一方、割安性ファクター・株主還元性ファクター・収益性ファクターがマイナスとなり、中東情勢が緊迫化するも拡大には至らなかったなか、根強い AI 関連銘柄への期待からハイテク株の堅調が続き、「好業績のハイリスク・グロース株」へ資金が向かったことが見てとれます。

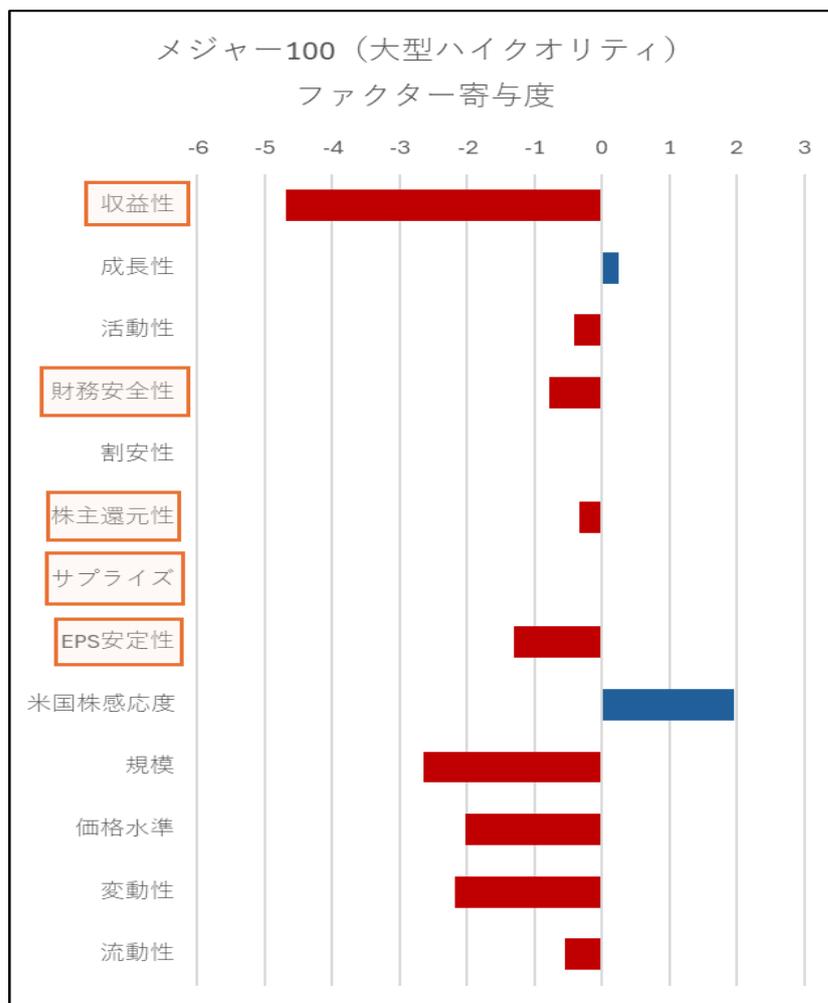


➤ ファクター寄与度

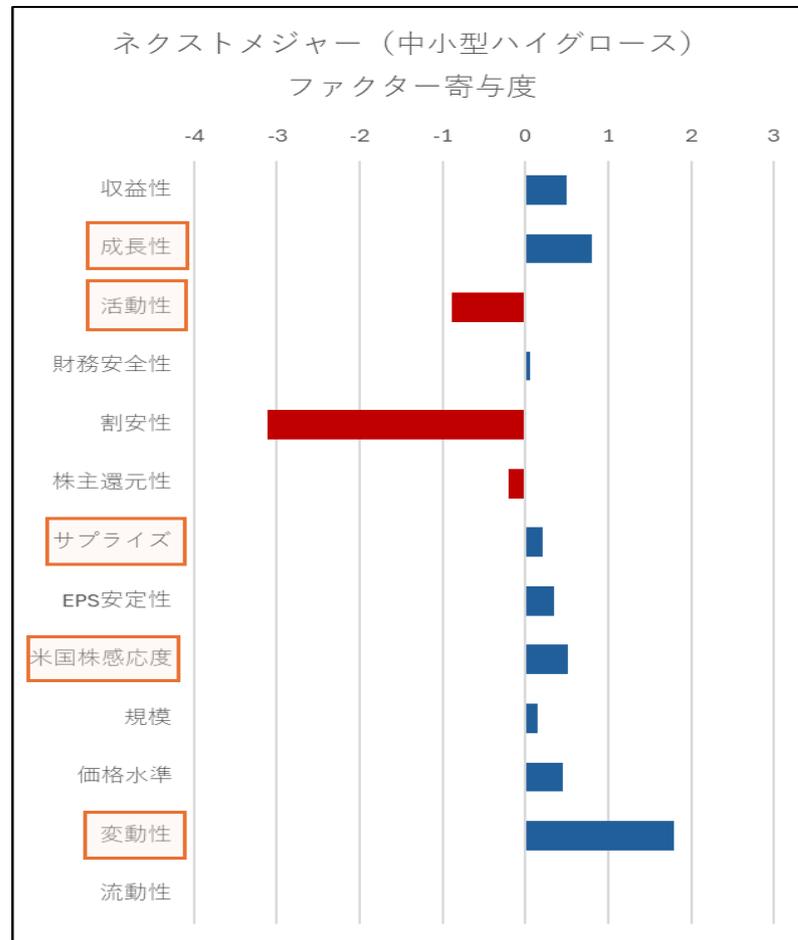
その様な市況環境のなか、Wealth Growth（ウェルスグロース）がご提供している全ての戦略がプラスになるも、全戦略がベンチマークをアンダーパフォームする結果となりました。

メジャー100（大型ハイクオリティ）がS&P500を若干アンダーパフォームした要因は、メジャー100の特徴であるハイクオリティ特性「高財務安全性・高EPS安定性・高収益性」が6月は逆にマイナスに寄与したことです。

また、大型株の特徴である高流動・高株価水準（=値高株）・大型（=時価総額大）といった特徴もマイナスに寄与しました。



ネクストメジャー100（中小型ハイグロース）がRussel2000をアンダーパフォームした要因は、ネクストメジャー100ポートフォリオの特徴であるハイ・グロース特性「高変動性（＝ハイリスク）・高成長性（＝売上高や利益の高い成長性）・高サプライズ（＝高い業績変化率）・高米国株感応度（＝ハイベータ）」はプラスに寄与しましたが、下落により割安性ファクターが市場平均よりもオーバーウエートしたことでこれがマイナスに大きく寄与したことです。



➤ **個別銘柄寄与度**

下表の、オレンジ網掛けは今月の高寄与度ファクター、ブルー網掛けは今月の低寄与度ファクター。

また、表の赤い太字は、各ポートフォリオの特徴となるファクター。

**メジャー（大型ハイクオリティ）**

寄与度上位5銘柄

No	1	2	3	4	5
<b>Tiker</b>	<b>NVDA-US</b>	<b>CMG-US</b>	<b>GOOGL-US</b>	<b>NFLX-US</b>	<b>AMZN-US</b>
<b>銘柄名</b>	<b>NVIDIA CORP</b>	<b>CHIPOTLE MEXICAN</b>	<b>ALPHABET INC-A</b>	<b>NETFLIX INC.</b>	<b>AMAZON.COM INC</b>
寄与度	1.55%	0.54%	0.44%	0.33%	0.31%
<b>収益性</b>	2.58	1.34	1.70	1.58	0.70
成長性	1.48	0.23	0.23	0.75	0.39
活動性	0.92	1.16	0.48	0.56	0.80
<b>財務安全性</b>	1.99	0.34	1.86	0.67	0.74
割安性	-0.73	-0.65	0.82	-0.78	-0.21
<b>株主還元性</b>	0.44	-0.69	0.51	-0.69	-0.69
<b>サプライズ</b>	-0.15	-0.61	0.64	0.73	-0.32
<b>EPS安定性</b>	3.03	3.03	2.44	2.77	2.06
米国株感応度	1.82	0.07	0.27	0.13	0.86
<b>規模</b>	3.01	1.83	2.96	2.75	3.01
価格水準	1.34	0.74	1.47	2.82	1.64
変動性	0.27	-0.74	-0.73	-0.66	-0.52
流動性	3.01	2.01	2.92	2.86	3.00

寄与度下位5銘柄

No	1	2	3	4	5
<b>Tiker</b>	<b>ADBE-US</b>	<b>V-US</b>	<b>BMJ-US</b>	<b>UAL-US</b>	<b>DECK-US</b>
<b>銘柄名</b>	<b>ADOBE INC</b>	<b>VISA INC</b>	<b>BRISTOL-MYERS</b>	<b>UNITED AIRLINES</b>	<b>DECKERS OUTDOOR</b>
寄与度	-0.31%	-0.28%	-0.15%	-0.12%	-0.07%
<b>収益性</b>	2.23	2.46	1.79	0.50	1.57
成長性	0.05	0.19	-0.75	-0.48	0.50
活動性	0.54	-0.06	0.09	0.51	1.24
<b>財務安全性</b>	1.13	0.92	-0.15	-0.42	1.70
割安性	-0.39	-0.66	0.85	1.61	-0.27
<b>株主還元性</b>	-0.69	0.56	1.92	-0.69	-0.69
<b>サプライズ</b>	0.10	0.15	0.60	-1.13	1.51
<b>EPS安定性</b>	1.83	2.95	-0.07	1.10	3.03
米国株感応度	0.09	-0.28	-1.30	1.90	0.78
<b>規模</b>	2.29	2.80	1.96	1.41	1.30
価格水準	2.12	2.05	0.68	0.97	1.30
変動性	-0.57	-1.60	-1.01	0.40	0.00
流動性	2.27	2.62	2.11	1.88	1.48

## ネクストメジャー（中小型ハイグロース）

### 寄与度上位5銘柄

No	1	2	3	4	5
Tiker	METC-US	WNC-US	CNDT-US	SLQT-US	ODP-US
銘柄名	RAMACO RESOURCES	WABASH NATIONAL	CONDUENT INC	SELECTQUOTE INC	OFFICE DEPOT INC
寄与度	2.89%	1.41%	0.95%	0.65%	0.52%
収益性	-0.60	1.14	-0.62	-0.32	-0.07
成長性	0.30	0.72	-0.92	2.74	-1.68
活動性	0.71	1.24	1.13	0.92	1.67
財務安全性	0.63	-0.49	-0.20	-0.61	-0.44
割安性	0.84	1.89	1.54	1.09	2.32
株主還元性	2.01	1.35	-0.69	-0.69	-0.69
サプライズ	-1.56	0.39	1.73	3.04	1.62
EPS安定性	-1.87	-0.64	0.65	-0.69	-0.55
米国株感応度	-0.68	0.13	-0.28	0.48	0.19
規模	-0.16	-0.17	-0.20	-0.16	-0.06
価格水準	-0.25	-0.23	-0.87	-0.86	0.15
騰落率	-0.43	-1.20	-1.19	-0.85	-0.59
変動性	0.91	0.47	-0.15	0.79	0.62
流動性	0.08	0.18	-0.27	-0.08	0.13

### 寄与度下位5銘柄

No	1	2	3	4	5
Tiker	WEST-US	XPOF-US	CODI-US	WOOF-US	AXL-US
銘柄名	WESTROCK COFFEE	XPONENTIAL FITS	CMPSS DVRSFD ORD	PETCO HEALTH	AM AXLE&MANUFACT
寄与度	-1.38%	-1.25%	-0.32%	-0.16%	-0.15%
収益性	-1.26	0.35	0.44	-0.38	-0.08
成長性	1.83	1.79	0.82	1.38	-1.14
活動性	3.01	0.50	0.25	1.09	1.06
財務安全性	-0.70	-1.22	-0.70	-0.65	-0.70
割安性	-0.03	0.45	1.75	1.66	2.41
株主還元性	-0.69	-0.69	3.01	-0.69	-0.69
サプライズ	1.03	0.65	1.74	-0.03	0.64
EPS安定性	-0.70	0.06	-1.45	0.00	0.67
米国株感応度	0.78	0.26	0.06	0.34	0.77
規模	0.03	-0.26	-0.04	0.06	-0.07
価格水準	-0.33	-0.26	-0.31	-0.71	-0.56
騰落率	0.68	-1.04	-1.88	-0.04	-0.81
変動性	0.53	0.95	0.96	0.72	0.06
流動性	-0.34	0.02	0.26	0.13	0.21

## ■ Wealth Growth 戦略の目的・特色

### 1. 目的

予測が困難な市場構造の変化（金利・為替などの外部要因）の影響を極力排除し、S & P500 を凌駕するパフォーマンスを目指します

### 2. 戦略の特色

特色 1 市場構造の予測を必要としない、全てのレジームで機能する汎用性の高いマルチファクターモデルによるクオンツ運用を行います

特色 2 ニューヨーク証券取引所及び NASDAQ に上場する約 5,000 銘柄の詳細な市場及び財務データを活用します

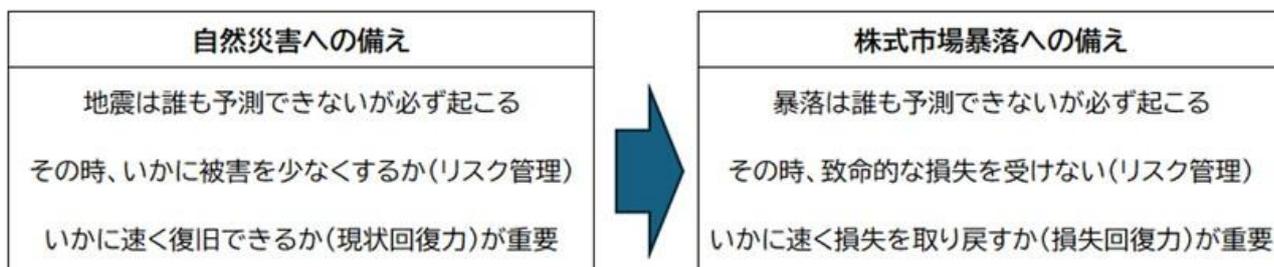
特色 3 銘柄選択において、大型株（Major）では「高収益性」「高EPS 安定性」「高財務安全性」「高株主還元性（=高配当）」「高サプライズ（=好業績）」によるハイ・クオリティ特性のモデルを活用、中小型株（Next Major）では「高成長性」「高活動性（=高い総資本回転率）」「高サプライズ（=好業績）」「高米国株感応度（=ハイベータ）」によるハイ・グロース特性のモデルを活用します。

特色 4 組入れ銘柄数は 20～25 銘柄程度の集中投資、業種分散は市場構成比並みとし、リスクは S & P500 ±10%程度となるよう毎月リスク調整のリバランスを行います。

### 3. 戦略のコンセプト

**・Wealth Growth（ウェルス グロース）のコンセプトは、誰もできない将来の予測よりも、**

「リスク管理と損失回復力を重視した運用で資産を成長させる」ことにあります。



**・損失の回復力が運用にとって極めて重要な理由は、**

「損失よりも、利益が大きい投資」を続けていれば、いずれ利益が損失を上回る確率が高い運用となるためです。

**・回復力を示す運用指標ソルティノ・レシオ※を最大化**

ソルティノ・レシオの最大化のために、AI にファクターの組み合わせを見つけ出させた結果、下記が、市況の予測を必要とせず、全ての市況で機能することが分かりました。

※ソルティノ・レシオとは、リターンの方リスクのみの標準偏差を利用し損失のみに注目して効率を評価する尺度です。計算式は、年率換算リターン／年率換算下方リスク。

### ① 大型株 (Major)

「高収益」×「EPS 安定」×「財務健全」×「高配当」×「好業績」といった、

ハイ・クオリティ特性あるファクターを選択し、本質的に価値の高いハイ・クオリティ銘柄群に投資します。

### ② 中小型株 (Next Major)

「高成長」×「高活動」×「好業績」×「ハイベータ」といった、

ハイ・グロース特性あるファクターを選択し、成長性の高いハイ・グロース銘柄群に投資します。

## 4. ファクターの説明

Wealth Growth (ウェルス グロース) は、ファクターに基づく運用を行っており、ファクターは以下を採用しています。

	ファクター	代表的ファクター構成指標
1	収益性	売上高営業利益率、ROE、ROA、等
2	成長性	売上高成長率、経常利益成長率、等
3	活動性	総資本回転率、等
4	財務安全性	財務レバレッジ、CF負債比、等
5	割安性	経常利益株価比、自己資本株価比、等
6	株主還元性	配当利回り、等
7	サプライズ	経常利益修正率、等
8	EPS安定性	1年EPS変化の安定性、等
9	米国株感応度	米国株感応度60日間、等
10	規模	上場時価総額、等
11	価格水準	株価、等
12	騰落率	60日騰落率、等
13	変動性	ヒストリカルボラティリティ60日、等
14	流動性	売買代金20日平均、等

## 5. リスク管理

Wealth Growth (ウェルス グロース) は、回復力が高いポートフォリオを構築する際の最適化条件として、

- ① 銘柄数を、20～25 銘柄としています

- ② 1 銘柄、10%以上保有しないようにしています
- ③ 特定業種に偏重しないようにしています、
- ④ 上記の様な、十分なリスク分散を考慮した上で、損失回復力が最大となるよう、AI による最適化を行っています。
- ⑤ また、エクスポージャーを監視し、ポートフォリオのリスク特性を維持するよう、定期的にリバランスを行いリスク管理を行っています。

以上

※本レポートは、2025 年 7 月 3 日時点の情報に基づき作成されております。

(提供：株式会社スマートプラス)

## 免責事項

### ご留意事項

「WEALTH GROWTH」は、株式会社スマートプラスが提供する投資一任運用サービスです。Jトラストグローバル証券株式会社は「WEALTH GROWTH」の業務委託先として、お客様と株式会社スマートプラスとで交わす投資一任契約締結の媒介を行っております。

「WEALTH GROWTH」へのお申込、契約、お取引に関するお客様の情報に関して、株式会社スマートプラスより当社は媒介業務の範囲で業務委託先として個人情報の共有を受けております。

#### <業務内容について>

Jトラストグローバル証券株式会社は、本サービスにおける株式会社スマートプラスとお客様との間の投資一任契約の締結に係る媒介を行う役割を担い、以下の業務を行います。株式会社スマートプラスは、投資運用業を行う役割を担い、以下の業務を行います。

#### 【Jトラストグローバル証券株式会社】

- 対面または電話等による投資一任契約等および投資一任サービスの内容の説明や契約締結の媒介に係る勧誘
- 口座開設画面や投資一任運用サービス画面への誘導・操作の案内
- 入金状況・取引状況に関するお客さまから照会への対応
- 株式会社スマートプラスからお客さまに提供される各種報告書等に関するお客さまからの照会への対応
- 株式会社スマートプラスから提供されると投資一任運用サービスに係るシステム等を経由して取得可能な情報に基づくお客さまからの照会等への対応（入出金日、取引日、個別銘柄の売買内容等）
- 投資一任運用サービスに基づきお客さまに提供されるポートフォリオのパフォーマンス、組入銘柄の内容やパフォーマンス等に関する客観的な情報等の提供

#### 【株式会社スマートプラス】

- 投資一任契約の説明および締結（契約締結前書面、契約締結時書面の交付）
- 入出金に係る手続き
- 投資一任運用サービスに係る運用ポートフォリオの構築・リバランスに係る売買の執行
- 取引および残高に係る報告および運用に係る報告

### 重要事項

#### <手数料など諸費用について>

本サービスをお客様が利用するに当たり、以下の手数料を負担していただきます。詳細は、手数料および契約締結前交付書面にてご確認ください。

- 購入時手数料（運用コース増額申込時に、増額金額に対して負担していただく費用です。投資環境の説明や情報提供等、ならびに契約締結に必要な事務コストの対価としてお支払いいただく費用となり、業務委託を行っている場合、株式会社スマートプラスから業務委託先に支払う費用が含まれます。）

- サービス利用料（運用資産の時価評価額に対し負担していただく費用です。ポートフォリオのリバランス（銘柄の入れ替え等）、各種レポートや報告書の作成等、およびシステム運営等に必要なコストの対価としてお支払いいただく費用となります。）

<投資一任契約（ウェルスグロース）に係るリスクについて>

本サービスにおける投資一任契約に基づく運用は、値動きのある有価証券（米国株式の個別銘柄）を投資対象としているため、当該有価証券の上場市場における取引価格の変動や為替の変動等により運用資産の価値が変動します。従って、本サービスは投資元本が保証されるものではなく、投資一任契約に基づきお客様からお預かりした資産の当初の評価額（投資元本）を下回ることがあります。本サービスにおける主なリスクは以下のとおりです。ご契約に当たっては契約締結前交付書面をよくご覧下さい。

【相場変動リスク】

お客様が所有するポートフォリオを構成する米国上場株式は、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動に伴い価格が変動します。本サービスは、その影響を受けてお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。

【信用リスク】

お客様が所有するポートフォリオを構成する米国上場株式の発行者などの信用状況に変化が生じた場合、当該米国上場株式の市場価格が変動することによってお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。

【流動性リスク】

米国上場株式は、市場環境の変化等により取引に支障をきたし、売却できない場合があります。本サービスはその影響を受けて換金できないリスクがあります。

【カントリーリスク】

通貨を発行する国家固有の政治的・経済的な変動等により投資元本を割込んだり、途中売却が困難になる可能性があります。また、政府等による突発的な取引規制が行われた場合、円を含む他通貨への交換に影響がでる可能性があります。

【為替リスク】

本サービスにおける投資一任契約に基づき投資運用される米国上場株式は、為替相場（円貨と外貨の交換比率）が変化することにより、為替相場が円高になる過程では円貨換算した価値は下落し、逆に円安になる過程では円貨換算した価値は上昇します。したがって、お客様が所有するポートフォリオを構成する米国上場株式の日々の円貨換算の時価評価時および売却時の為替相場の状況によっては為替差損が生じるおそれがあります。本サービスは、その影響を受けてお客様が所有するポートフォリオの時価評価額が大きく変動し、投資元本を割り込む場合があります。また、本サービスにおける各種手数料等の費用の徴収に伴い為替取引を行う際に、為替相場の変動により円貨換算した費用の額は変動します。

<p>[投資一任契約の媒介業者]</p>  <p>Jトラストグローバル証券株式会社          金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第35号          加入協会/ 日本証券業協会          一般社団法人日本投資顧問業協会</p>	<p>[口座管理機関]</p>  <p>株式会社スマートプラス          金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第3031号          加入協会/ 日本証券業協会          一般社団法人日本投資顧問業協会          一般社団法人第二種金融商品取引業協会</p>
---	---